

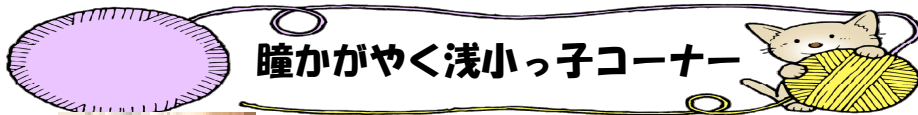
あさな!

令和2年11月5日(木) No.25

文責：矢田部 瑞穂

浅内ロケット団～未来へ向かって～

8月初旬に浅内地区全戸に配布し、お願いしていた「地域とともに歩む組織の愛称」が、この度決定いたしました。地域の皆様よりお寄せいただいた4点と本校の子どもたちと保護者の皆様が考えてくださった愛称62点。合計66点の中から教職員により13点まで絞り、最終的には本校児童と教職員による「愛称決定選挙」で21票という三分の一ほどの得票数を獲得し、金谷さん(3年)三浦さん(3年)が提案した「浅内ロケット団」に決定いたしました!地域の魅力の一つである「ロケット」により、明るい未来を創造する力強さを感じる素晴らしい愛称に決定したと思います。この愛称を引っ提げて、今後も「地域コミュニティの核となる学校」を目指して努力して参ります。今後も、どうぞよろしく願いいたします。



瞳かがやく浅小っ子コーナー

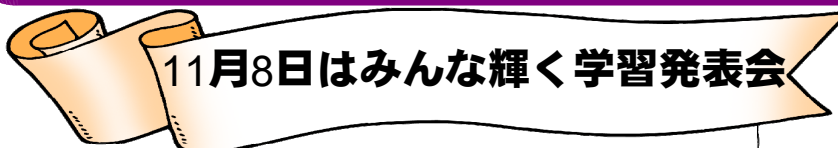
(3年) 金谷



北羽新報の記者の方の質問に対し、最高の笑顔で堂々と話す金谷さん。全校遠足で出かけた時のロケット実験場が心に残っていて愛称を考えると時の手掛かりにしたと言う。普段から、学校狭しと駆け回る元気いっぱいの金谷さんだからこそ、「ロケット団」という言葉がぴったり似合う。金谷さんのように誰に対しても堂々と自分の考えを話せる子どもを育てたい。

この愛称に決定する前から、「ロケット団」という愛称を考えられた理由を語ってくれた。「ロケットに乗ってみんなが未来に向かっていく様子が見えます!」と、遠くを見つめながら語る姿が本当に魅力的だ。この子どもたちが希望もてる未来を創るために大人である私たちに何ができるのか。未来は楽しそう!大人は楽しそう!そう思わせる人になりたい。三浦さんの未来を展望する姿から学ぶ。

(3年) 三浦



11月8日はみんな輝く学習発表会

お願い

平川 (1年) 金谷 (2年) 1・2年生の発表



学習発表会のご案内でもお願いしておりますが、改めて次のことをお願い申し上げます。



今日は学習発表会の予行練習でした。5, 6年生は本番までマル秘でしたが、1~4年生までは本番さながらに堂々とした発表を見せてくれました。当日は、どうぞ子どもたちの頑張り大きな大きなエールをお願いいたします。

- ①ご来場前に検温の上、37度以上の場合はご遠慮ください。
- ②発表が始まると暖房を止める予定でおります。寒くない服装でおいでください。
- ③マスク・上履きのご準備もお願いいたします。



「浅内」第3位に輝く

決勝リーグ出場

★ベスト4★

〔決勝リーグの結果〕

浅内 33 - 90 八竜

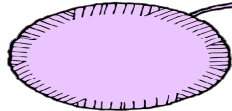
浅内 64 - 42 琴丘

1位：八竜 2位：ブルーインズ

3位：浅内 4位：琴丘

能代山本秋季ミニバス大会

私は、昨年度全県優勝している八竜との対戦を観戦しました。全県王者に堂々と立ち向かう姿に感動しました。誰一人下を向いている浅小っ子はいません。部員数10人。誰一人欠けても出場ができなくなるというそのぎりぎりの人数で、本当に素晴らしい試合を見せてくれました。「瞳かがやく浅小っ子コーナー」には、この試合で最後になった6年生5人を掲載しましたが、先輩のプレーに劣らない好プレーを見せてくれた平川さん、保坂さん、木元さん〔5年〕松玖さん、保坂さん〔4年〕、一生懸命がんばる10人全員に大きな拍手を送ります。「浅小プライド」ここにあり！



瞳かがやく浅小っ子コーナー



★4番 大塚★チーム浅内を牽引してきたキャプテン。辛いことはなかったかと聞いてみた。「最初はプレッシャーもあったけれど、最後の試合は本当に楽しかった。」と、大塚スマイルを見せた。一試合ごとに「キャプテン」としての意識が高くなっていくのを感じた。八竜戦では、プレーをしながら広い視野でメンバーに指示を出していた。どんなに負けが込んできても、その声の大きさは変わらなかった。前を向くキャプテンが心強かった。

★5番 保坂★チーム1の得点王。王者八竜にも、決してひるむことなく果敢に攻める姿が光っていた。相手が強くなればなるほど、試合を楽しむ余裕すら感じた。「バスケから何を学んだか。」と、聞いてみた。「仲間の大切さです。」と、即答した。試合翌日の自学ノートには、弟と一緒にできる最後の試合が終わった時の寂しさを書いていた。優しさや強さを兼ね備えた名選手だと感じた。これからの成長がますます楽しみだ。



★6番 平川★ベンチには父がいて、チームの中には弟がいる。何も語らないが、長男として様々な思いを抱きながら闘ってきたのではないかなと思う。試合後「楽しかった」と語る平川さんに、「なぜ楽しさが残ったと思うのか」とさらに質問を重ねてみた。「うまくいかなかった時があるからこそ、うまくいった時の喜びがたまらない。最後にはいい試合ができた。」と胸を張った。経験を重ね、心身共に確実に成長する姿がここにあった。

★7番 越後★弱音を吐かない越後さんだが、最後の大会前の1週間で体調を崩し、前日までは決して万全ではなかったと思う。けれども、試合当日のコートには「完全復活」を裏付ける、闘志の目をもつ越後さんの姿があった。身長は低いけど、そのスピードは王者八竜の隙を突いてグングン自陣へとボールを運ぶ。今大会を振り返って「最後の琴丘戦で仲間が一体となる心地よさを味わった。」と語った。何にも代えがたい経験をした。



★8番 清水★「靴を履くこともできなかった。」とジャンパー膝に苦しんだ今大会を振り返る。1クォーターしか出られなかったことを「もったいなかった。」と語る。「もっと走りたいし、シュートを入れたかった。もっと、もっと・・・。」それが「もったいない」という言葉となった気がした。ベンチに座り、誰よりも大きな声で必死に応援していたことを告げると、「せめて自分もがんばっているみんなの一員としてできることをしたかった。」と。清水という少年から感動をもらった。